

(様式2)

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102077		
法人名	燦祥会		
事業所名	グループホーム はまべの里		
所在地	新潟県新潟市北区島見町2190		
自己評価作成日	平成30年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成31年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームはまべの里は、新潟市郊外の農村地帯にあり緑豊かで静かな環境が囲まれています。"ご利用者様に快適な生活を提供し、居心地の良い空間をつくる"という理念のもと、木材使用で吹き抜けを広く取った建物はぬくもりと開放感を感じさせます。また、中庭には様々な種類の樹木や草木があり、施設内にも職員が工夫を凝らした四季折々の掲示物をご利用者の目を楽しませています。地域の一員であるという理念に基づき、日頃より近所の方々との関わりを心掛けています。法人内で行なわれる納涼祭も様々な地域関係者の皆様のご協力で成り立ち、近所の方の参加もご案内しています。運営推進会議においても、地域の自治会長、民選委員、他施設の方にも参加していただき、それぞれのご意見をより良い施設運営に役立てています。ご利用者様により質の高いサービスを提供するために、職員の内部研修、外部から講師を招いての慣習を積極的に行なっている。ご利用者様に対しては、毎月季節に応じた行事を行い、楽しめる時間と季節を感じられる時間を提供している。ご利用者の入居後、面会時に近況を報告し、状態の確認や今後のケアの方針の相談、定期的な広報紙の発行や受診のご協力依頼など、ご家族との繋がりを大切にされた対応を心掛けております。

事業所は新潟市郊外の田園地帯に所在しており、建物は木材を使用した全体に広さと温もりが感じられる造りとなっている。ユニットを挟んだ中庭には手入れの行き届いた植栽が多くあり、自宅で庭を眺めているような雰囲気の中で利用者は四季を感じながら過ごす事が出来ている。

同法人が運営する隣接のデイサービス事業所や近隣にあるミニ特別養護老人ホーム等との協力体制があり、全体研修や相談できる機会があるなど、職員にとっては心強い運営が継続されている。

管理者、職員は事業所が地域密着サービスである事を認識し、地域との交流の機会の拡大に努めているところであるが、事業所が集落から離れた場所に所在することもあり、なかなか成果が見いだせなかった。平成30年度は地域の理髪店に事業所の案内図等を置かせてもらうなどの取り組みを始めており、少しずつ運営推進会議を活用した地域との交流も広がって来ている。

職員は、利用者が入居後も「その人らしい暮らし」が継続できるように、一人ひとりが慣れ親しんできた畑づくりや、生け花、裁縫などを楽しんでできるように支援しており、庭で収穫した梅でジュースを作ったり、畑で収穫した野菜を食事に取り入れるなど、利用者が生きがいを持ってより豊かに暮らしていけるように取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念の確認を行い、施設内にも掲示し、確認が取れるようにしています。	開設時に法人理念を基に作った事業所理念を事業所の目指す方向性として日々取り組んでいる。職員は毎朝確認を行うとともに、掲示することでより意識付けができるようにしている。管理者の交代により、年度末には再度理念について全職員で話し合う予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室を利用されてもらったり、保育園児とのクリスマス会の交流を行なっている。また、近所の理容店には施設までの地図を置かせていただいている。	地域密着型サービス事業所である事を管理者初め職員で認識しながら取り組んでいる。事業所が集落から離れた場所に所在している不便さはあるが、保育園児との交流は継続しており、利用者の喜びに繋がっている。新たな取り組みとして地域の商店等にパンフレット等を配置してもらい交流機会の拡大に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、自治会長、民選委員、地域包括職員、他施設の職員に、施設で行なった認知症についてのケアの方法や、対応後の様子を報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、自治会長、民選委員、地域包括職員、他施設の職員との情報交換や、認知症症状への対応などの話し合いを行ない、頂いたご意見をサービス向上のために活かしています。	運営推進会議には自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣のグループホーム職員が参加して開催している。利用者の状況や運営状況、行事に関する報告のほか、課題に対する意見をもらっている。しかし、利用者及び家族の参加が得られていない状況にある。	運営推進会議は、職員のみでなく利用者と家族、地域住民が一体となって、利用者が地域の中でより豊かに暮し続けるために話し合う場であることから、利用者や家族の参加が得られるように、さらに働きかけて行くことを望みたい。また、家族全員に会議の目的や検討事項を理解してもらうためにも、会議内容の報告について検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員のは運営推進会議に参加をして頂いており、センター主催の会議や研修を通して関係作りを行なっています。	地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーであることから、利用者についての相談等はいつでもできている。また、近隣グループホームの管理者等が集まる連絡協議会にも出席しているため、事業所全体が抱える課題等についても伝える機会が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通し、身体拘束とはどのようなものかを理解し、身体拘束の必要のないケアの方法を意識しながら対応を考えてもらっている。やむを得ず必要な場合はご家族に説明と同意を頂いて対応しております。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず危険回避を優先してセンサーマットを使用する場合には家族の同意を得て実施している。内部研修は実施しているが、身体拘束の対象となる具体的な行為については、定期的に学ぶ機会がない。	やむを得ずセンサーマットの使用を行う場合においても、計画的に取り外すための検討会が必要である。また、身体拘束を行うことの弊害についても、正しく理解するために定期的に研修会を実施することを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の内部研修を開き、研修の場で職員間で話し合いを行い日ごろの対応の仕方を振り返り、不適切な対応にならないように職員各自が再認識しております。	虐待についても行ってはならないという意識の中で日々ケアを実施している。不適切な言葉掛けや対応があった場合は、職員間で注意し合える関係性が築かれている。内部研修会も実施しているが、全職員が正しく虐待関連法について理解するには至っていない。	虐待に関する研修は実施しており、日々のケアについての振り返りを行う機会をもっている。今後は更に高齢者虐待関連法についても理解し、虐待防止に取り組んで行く事を期待する。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員各自がその重要性を理解し、基本的知識を身につけるよう努めています。ご利用者、ご家族には必要に応じ、対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明以外での料金改定、その他の疑問等は面会時や電話での対応も行い、ご家族に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者一人1人に担当職員をつけ、ご家族と連絡を密にしています。また、ご家族の面会時に希望・要望をお伺いして、その後意見を施設運営に反映させるよう努めています。	利用者には日々の暮らしの中で随時意見や要望を聞いている。家族には面会時に意見等が聞けるように丁寧に声かけを行うほか、担当職員が電話で連絡を取り、意見を聞いている。現在、家族からの要望のひとつであった生活リハビリの実施に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の中の意見、提案を検討する他、日々の業務の中でも様々な意見を吸い上げるようにしています。また、施設長、管理者は意見が言いやすい、風通しの良い職場づくりに努めています。	職員が意見を申し出やすい環境づくりに取り組んでおり、日常的に職員同士での話し合ったり、管理者に提案することができている。また、職員会議や委員会活動においても活発な意見交換が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は定期的に個人面談を通して職員各自の状況、要望等を把握し、より良い職場環境、条件の改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は人事考課を活用して各職員の力量を把握しています。また、法人として、外部・内部研修を定期的実施して各自の技術向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他施設の運営推進会議や包括ケア会議等各種会議に出席する事により情報交換を行っています。また、職員が他施設で実習をする機会も設けています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人と面談をし、十分に情報収集をおこない、ご本人に安心して頂けるサービス提供を行います。また、ご家族にもご協力いただきご本人の情報を得て、対応致します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築くこと重要視し、話し合いの場を設け、不安、要望に対し、安心して頂ける様に十分に説明をして、ご納得して頂けるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を第一に考え、尊重します。良い方向の向かえるよう、必要な支援を見極めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人一人のできる事を見極め、日々の生活の中に役割をもって頂き、助け合いながら生活している事を実感できるように支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態や生活の様子を面会時や広報誌によって報告、ご理解して頂き、面会や外泊の機会を増やすように働きかけています。また、受診の付き添いや必要な物品の購入等をご依頼しています。	担当職員がお便りを送る際に日頃の暮らしの様子を家族に伝えている。介護計画の作成時には利用者の暮らしに対する要望を聞き、家族と一緒に目標が達成できるように取り組んでいる。利用者が外出や買い物を希望した場合は家族にも協力を依頼し、一緒に過ごせる時間が持てるように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に馴染みの方の面会や、外出などをお願いしています。	利用者の知人が面会に来られた際には、ゆっくり過ごせるように声かけをして、関係が継続出来るように働きかけている。また、馴染みの理髪店を継続して利用したり、これまでの暮らしの中で親しんできたお茶点や裁縫が継続して行えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者の間に入って、楽しく生活できるように橋渡しをしたり、職員会議やカンファレンスを通して、ご利用者同士の関係を把握して支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際に心配事や相談事にはいつでも応じると伝え、契約終了後にも連絡があれば対応、契約終了と同時に関係も終了としないように心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人に担当職員が就き、その方の希望、要望を詳しく把握するようにして支援を行っています。その情報は職員会議、カンファレンス等を通し、職員間で情報共有しています。	担当職員が中心となり利用者寄り添って日々の暮らしの中で意向を把握している。また、利用者の代弁として家族からも面会時に思いを聞き取れるように努めている。言葉での把握が困難な場合は、生活習慣や表情で読み取っている。把握できた内容はケース記録に残して職員で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族に聞き取りをしたり、アセスメントを通してご本人の状況を確認して職員間で情報を共有して、把握に努めています。	事前面接で利用者・家族から生活歴や生活習慣について聞き取りを行っている。また、入居前に利用していたサービス事業所、居宅のケアマネジャー、病院の相談室等からも情報を得ることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の訴えに対し、小さなことでも耳を傾け、少しでも不安を取り除き、安心して頂ける様に取り組んでいます。職員各自がご利用者の心身の状態を把握するように努め、情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の思いも反映させながら、個別カンファレンスの随時開催や、職員会議を通して、現状に即したプランを設定しています。	介護計画の作成にあたっては、利用者・家族の暮らしに対する意向を聞き取り、目標に向けた支援が実践できるように職員会議等で意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。モニタリングも定期的実施しているが、サービス担当者会議には家族の参加がなく、関係者の参加も少ない。	利用者が事業所内のみでなく地域の中で暮らし続ける事を支援するためにも、今後は更に介護計画作成には利用者を取り巻く多くの関係者が参加し、意見を出し合っで作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りや、記録を通して職員はご利用者の情報を共有してプランに反映させたり、問題点の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状を分析し、その時、その場のニーズに応じた臨機応変な支援・サービスを提供できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の保育園児の慰問をご利用者は楽しみにしています。また図書館の解放を利用する等学校との交流も行っています。他にも隣接のデイサービスのボランティアの催しに参加したり、近隣の緑地公園の散歩、美容院の利用も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地区にある医療機関を定期的受診することでかかりつけ医と連携をとりながら健康管理に努め、状態の急変にも対応しています。ご家族の希望にも可能な限り協力できるようにしています。	協力医への変更またはこれまでのかかりつけ医の継続は、自由に選択できるように支援している。協力医への受診は職員が付き添い、受診時以外でも必要に応じて何時でも相談できる関係にある。他のかかりつけ医へは基本的に家族の付き添いによる受診としているが、文書や電話によって状態が正確に伝わるように取り組んでいる。2ヶ月に1回皮膚科医の往診体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日バイタル測定を行い、記録し、変化は申し送りにて連絡します。その上、看護師とは24時間連絡が取れる体制を構築しており、小さな変化でも相談・連絡し、指示をもらえるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設が病院・主治医に連絡をとり、定期的に現状確認を行ったり、面会、相談や情報交換を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに家族やかかりつけ医と相談したり、意向を確認したりしています。その際に施設でできる事、できない事を伝え、ご本人、ご家族にとって一番良い方法を検討しています。	入居時に、重度化した場合や終末期の対応について事業所の指針を文書で説明し同意を得ている。利用者に変化が見られた場合は、早い段階にかかりつけ医や家族と話し合いを行い、他の施設への移行を支援している。これまでに一人の看取りをかかりつけ医の協力で行うことができたが、現段階では職員体制や状況等により実施していない。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より講師を招き、救命救急講習を行ったり、看護師より、応急方法の伝達やその都度必要な処置方法を指導してもらっています。	救急救命法やAEDの使用法について、消防署の協力を得ながら講習会を開催している。看護師からは必要に応じて対応方法や応急手当について指導を受けている。	看護師は常駐ではないが何時でも相談できる体制にある。しかし、夜間帯は職員配置も一人であるため、利用者の急変や事故には直ぐに対応できる力を身に付けておく事が望ましい。今後は定期的な研修を積み重ねて、全職員が実践力をつけていく事を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で避難訓練を行い、消防署より指導頂いております。食糧等の緊急時の備品も管理しています。訓練内容等は運営推進会議にて報告、地域の協力を依頼しており、他施設との情報交換も行っています。	年2回の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。事象別のマニュアルについては現在整備や見直しに取り組んでいるところである。避難場所や避難経路についても確認を行い、備蓄品は適切に管理している。	火災や自然災害発生時は一分一秒を争う事態と認識し、通報訓練や避難訓練の実施を積み重ねて対応力をさらに身に付けていく事を期待したい。また、地域の協力は必要不可欠であるため、集落から離れた場所に所在するとはいえ今後も協力体制の強化に向けて取り組んでいく事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議等で人格やプライバシーの重要性を確認し、職員全員が配慮した声かけを実行しています。個人情報の管理にも細心の中止を払っています。	職員は、利用者への言葉かけは一人ひとりの人格を大事にし、馴れ合い的な対応にならないように寄り添うケアに努めている。居室に入る時や排泄介助の際も必ず声掛けを行い同意を得るように心がけ、また、同性介助を希望する利用者にはできる限り応えられるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が何か行動を起こす時は、その意思を確認し、尊重しています。例えば衣類を選択する際にも自己決定ができるように環境を整えて支援しています。情報は職員間で職員間で共有します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等の1日の流れのなかで、ご利用者の希望を聞きながら、ご利用者のペースや希望を優先し支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人一人のこだわりや思いを大切に、季節等に合わせた支援を心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と相談をしながら、調理や盛り付け、配膳、後片付けを行なっています。職員の食事もご利用者と一緒のテーブルで会話を交えながら食べています。	献立は同法人の他施設の管理栄養士が立てているが、利用者の希望も反映され、行事や外出時には特別メニューもあって利用者の楽しみになっている。食事の下準備や配膳、片付け等に利用者も役割を担っており、手作りおやつの際には一緒に参加して作っている。食事は職員も一緒に、会話をしながら和やかな雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分量は記録を行っていますが、毎月体重測定を行っており、体重の増減の様子とご本人様との話し合いで、主食の分量を検討しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯のご利用者には職員が声かけや見守りで洗浄を促しています。自立の方は、声掛けにて		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については各ご利用者の排泄間隔を把握し、時間に応じてトイレ誘導をして対応しています。	排泄は一人ひとりの状況を把握しながら、適切な排泄用品の使用を支援しており、時間誘導や適切な声掛けを実践することにより、入居時より改善が見られた利用者もいる。下剤等の服薬により夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいるが、夜間を通じてトイレで排泄できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な利用者には水分摂取や体操レクリエーションを通して便秘予防に取り組んでいます。また、ご家族から乳酸菌等を使用したものを差し入れてもらったり、状態が改善しない場合は主治医に相談しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はご利用者と相談しながら、体調を心配競れたり、気が乗らない場合は無理に誘わず、状態を見ながら入浴を勧めています。	入浴は利用者の状態や希望により回数を決めているが、基本は1日置きに入浴できるようにしており、時間も午前・午後と柔軟に対応している。入浴時間は職員と一対一でゆっくり話せる時間でもあり、楽しみにしている利用者も多い。入浴できない人には足浴や陰部清拭などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の空調や照明の調整を行い快適な空間を提供できるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員管理しており、薬の内容もすぐに確認できるようにファイリングして管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、裁縫等のその人ができる事を活かし、日々の生活に張り合いをもって生活を送れるように支援を行っています。ご利用者一人一人の出来ることや、好みを職員間で情報共有を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者より、外出の希望があった場合、ご利用者と相談しながら外出の日程や行き先を相談しています。	日常的には事業所周辺の散歩や隣接のデイサービス事業所のイベントなどに出かけている。花の季節には少し足を延ばして緑地公園や濁川公園、福島潟にも出かけている。全員ではないが食材等の買い出しにスーパーへ行き、職員と一緒にフードコートに立ち寄るのも楽しみな外出となっている。また、家族の支援を得て個別に自宅や墓参り、外食、買い物に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、お小遣いとして現金をお預かりし、外出時や欲しいものがあれば使用させていただいている。出金についてはご家族への確認と、出納帳による明細の確認をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より希望があれば電話連絡や手紙のやり取り等支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングスペースを中心に定期的に壁面の飾りを変えたり、置物や生花を使用して季節感の演出を心がけています。貼り絵等はご利用者にもご協力いただき、作品を掲示しています。	共用空間は天井が高く適度に明かりが入る造りとなっている。食堂のテーブルの他にソファが設置されており、利用者が思い思いに過ごせるように配慮されている。また、季節が感じられるように壁面の飾りつけを時節ごとに変えたり、花を飾ってゆったりと過ごせる雰囲気づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの自席で気の合ったご利用者同士が過ごせるように配置を考慮したり、ソファでテレビを見たり、新聞を読んだり、自由に過ごせるように工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたものや、好みに合わせて持ち込んでいただいている。ご利用者の生活に合わせてご本人、ご家族と相談しながら居室の環境整備をしています。	居室は広く洗面台と収納庫は備え付けであるが、その他は自由に持ち込みを依頼しており、生活状況に合わせてベッドの種類や配置を決めている。出窓も大きく、観葉植物を置いたり、クッションを敷いて椅子代わりにするなど、居心地良く過ごせる様に工夫をしている。仏壇を持ち込んだり生け花をしている利用者もおり、入居前の暮らしが継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室に名札を設置し、トイレ・浴室等も表示を行い、ご利用者が混乱なく施設利用できるように工夫しています。又、身体状態に応じた福祉用具を導入して、残存能力を活かし、自立した生活が送られるように支援しています。何か危険な状態があればカンファレンスにて対応策を検討し、リスク回避の改善を図ります。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				